

「無」は面白い字で使われ方には色々あります。相対する者が礼節をわきまえず、態度に問題あれば、**無礼千万、無礼な奴だ**と言われます。当に否定語です。しかし、自分が相手に対して申し訳ないという謙虚な気持ちで御無礼致しましたと言ひ。他家に出向いた時の挨拶に使ったり、先に入浴し出た時に御無礼しました。と言ったりします。如何なる場合でも、**慇懃無礼**に成らないように気を付けましょう。このように無礼とは人間関係に対して起きる問題であり、人間と物との関係には存在しないと思われます。しかしながら社会生活を営む以上作法道徳がとても大切になります。暮れに回って来る神社のお札も本来ならば神社に詣でて受けるべきものであると思います。お参りとして礼を失すれば御利益を失う事になります。我々は生活するうえで多少は上下関係を保つべきでは無いかと思う訳です。社会生活で必要なルールと礼節とは少し異なります。自分を見失い間違っても無念なり、と言わなくてもすむ暮らしをしたいいものです。

次にむじよう、漢字で書けば大きく三つ無常と無情と無上があります。仏教的には無上と無常でしょう。皆様読経の始めに開経偈を称えますが開経偈の始めに**無上甚深微妙法**と出てきます、「**この上なく優れていて奥深い内容がある佛様の教え**」という意味ですが、言いかえれば**最上・最高**と言うことです。私達は最高に嬉しく思う時に**無上の喜び**と言う表現を使います。無心と言う言葉も良く使われますが生活に追われてきますと、**思考力に判断力が欠如し、心身とも満足に機能を果たせなく成ってきます**。それで**ストレス**がたまるわけです。そこで時々我々は心を浄化し心身ともにリフレッシュする必要があります。読経もその一つです。佛の教え無心の会得です。私は無心とは時と、場所を選ばず常に人間としての機能を正常に働かせる根本、心の準備ができている事だと思っています。

今年も残りわずかに成りました。「**いつの世も尽して求めず、皆友として支え合い、諸佛に見守られ、諸菩薩に助けられ**」、佛力加護のもと日々是好日に暮らせませす様に日頃より信心怠らず、痛みを最小限に食い止める事が出来る様に心掛けておきますよう。天災人災と人生には色々想定外が勃発します。**我が命にも想定外があります**。今日が良ければ寝る前に合掌し佛力加護を受けた身と佛に感謝し報恩忘れず、明日も良き日にと願いて「床につきましよう。静かに終わり明年が平穩に開けますよう祈念致しております。」

二十三年十二月一日

善壽男善入院油掛地蔵尊